

■北海学園大、北海道大が3勝目。優勝争いは釧路公立大含む3校に。第6節

第50回北海道学生選手権第6節は9月29日、札幌市円山競技場で1部リーグの2試合を行った。3週間ぶりの試合となった北海学園大は9TDの猛攻で室蘭工業大に62-14と快勝し、3連勝とした。室蘭工業大は1分け3敗。第4節で釧路公立大に黒星を喫した北海道大は帯広畜産大に24-12で逆転勝ちし、3勝1敗。帯広畜産大は1分け2敗。この結果優勝争いは、北海道大と北海学園大の直接対決が残ることから、4勝以上の可能性がある北海道大、北海学園大、釧路公立大（2勝1敗）の3校に絞られた。

北海学園大-室蘭工業大は、北海学園大が第1Q3分、QB成田滉佑（3年、札幌白石高）の40ヤードランで先制すると、同7分にRB高杉武生（4年、浦河高）の43ヤードランで14-0。第2Qには、QB成田滉からWR八乙女凌太郎（3年、札幌東陵高）への11ヤードパス、QB成田滉の3ヤードラン、CB岩上凌大（2年、帯広三条高）の50ヤードインターセプトリターンTDで加点し、35-0で折り返した。後半も第3QにRB高杉の11ヤードラン、第4QにQB成田滉からWR神林駿太（1年、北海高）への25ヤードパス、RB高杉の58ヤードラン、QB成田滉からWR八乙女への34ヤードパスでTDを加えた。QB成田滉は2TDラン、3TDパス、RB高杉はランで218ヤード、3TDの活躍だった。



室蘭工業大は0-42の第3Q6分、CB澤出柁（3年、伊達緑丘高）の25ヤードインターセプトリターンTD、同10分にはQB原田颯太（2年、岡山・倉敷天城高）からWR西京介（1年、大阪・高槻高）への3ヤードパスで14-42と追い上げたが、前半の失点が多すぎた。

北海学園大の高木幸樹HCは「大きいラインを生かした機動力勝負をした。QB成田滉佑は慣れてきた。1年生の活躍も好材料だ。あと2試合、48分間の集中力を切らさないようにしたい」と2年ぶり優勝に向けて気を引き締めた。2TDラン、3TDパスのQB成田滉は「これだけ走ったのは春の北大戦以来だが、パスをもっと投げないと話にならない。あと2試合、自分のランよりもパスを見せつけたい」と決意。インターセプトリターンTDを決めたCB岩上は「2回インターセプトして、2本目がTD。インターセプトも

TDも初めて。あと2試合。北大戦に勝ち、4年生と一緒に全国に行きたい」と言葉を弾ませた。

室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「前半に1本取れていたら、違った展開になった。インターセプトTDで意地を見せた。最終戦の東農大戦は、4年生のためにも勝利で終わりたい」と話し、インターセプトリターンTDのCB澤出は「ラッキーボールだった。あと1試合、CBの仕事をしっかりやりたい」と決意していた。

北海道大―帯広畜産大は、帯広畜産大が第1Q5分、QB岡田優人（2年、神奈川・横浜東高）からRB石村周也（4年、札幌清田高）への20ヤードパスで先制。第2Q10分にはRB石村の7ヤードランで12―0とリードした。北海道大の反撃は後半。第3Q1分、RB下島圭太郎（2年、神奈川・多摩高）の61ヤードラン、同4分にSダッシュティ瑛怜（1年、千葉・専大松戸高）の65ヤードインターセプトリターンTDで14―12と逆転した。北海道大は第4QにもRB下島の2ヤードラン、K雨宮暖（1年、山梨・甲府西高）の28ヤードFGで24―12とリードを広げた。



北海道大の樋之本彬HCは「相手の疲労で勝てた。1年生のインターセプトリターンTDなど若い力が出てきた。最後の北海学園大戦は総力戦になる。持てる力を最大限に出せるように、4年生に期待したい」。2TDのRB下島は「先輩OLが道を開けてくれた。チームが苦しい時に点を取れるRBになりたい」と決意し、インターセプトリターンのSダッシュティは「ディフェンスから点を取ろうとみんなで話していた。インターセプトは初めて。ボールをキャッチして、行くしかないと思った」と満足そうに振り返った。

帯広畜産大の西龍一郎監督は「惜しかった、悔しい。あと2戦、勝つしかない」と選手たちの奮起を求め、2TDのRB石村は「最初のドライブでするする行けて、行ける雰囲気だったが、後半に息切れした。北海学園大戦は死ぬ気でやるしかない」と力を込めた。（広報委員 塚田博）